

## 経済学研究科・入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学の建学の理念である、「進一層」の気概（チャレンジ精神）をもち、「責任と信用」を重んじ、「実践的な知力」を身に付けて活躍する人材の養成が本学の教育研究上の目的です。そのなかで経済学研究科は、経済・社会に対する強い関心を持ち、現実の経済に関する幅広い知識と経済学の理論により、経済・社会の諸問題を解決する高い能力を持った人材の育成を目的としています。これらに基づき、学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げることを実現させるため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）で示す教育課程において必要となる、以下の学力、関心等を有する人を修士課程及び博士後期課程それぞれの入学時点において求めます。

### 修士課程

- (1) 経済・社会の問題を深く考え、専門的分析を行うために必要な学力がある人
- (2) 経済・社会の問題に対する関心と問題解決に取り組む意欲を有する人
- (3) 歴史的なものの見方・論理的なものの考え方に対する興味を持つ人
- (4) 修士論文を作成することを前提とし、主体的に研究する意欲がある人

上記のことを踏まえて、修士課程では、以下の入学者選抜（入学試験）を行います。

#### ・一般入試

大学院教育を受けるために必要な学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、外国語（英語）、希望する専修科目と専修科目以外に関する筆記試験、及び口述試験において確認します。なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者については英語の筆記試験を免除します。

#### ・外国人留学生入試

大学院の教育課程に必要な日本語能力及び大学院レベルの専門分野を学ぶために必要な学士レベルの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、希望する専修科目に関する筆記試験及び口述試験において確認します。

#### ・社会人入試

社会人経験を大学院での学びに活かすことができることを前提に、専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、希望する専修科目に関する筆記試験及び口述試験において確認します。

#### ・シニア大学院入試

シニア大学院の趣旨である生涯現役の観点で、専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているかを確認します。これまでの経歴を踏まえ、研究計画やテーマ設定が適切であるか、また、志望動機及び入学後の研究に対する熱意等を確認するため事前相談を実施し、その上で課題レポート及び口述試験を実施します。

#### ・学内選考入試

大学院教育を受けるために必要な学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、本学学部における学業成績が優秀な者に対して口述試験によって確認します。

### ・本学学部早期卒業生入試

大学院教育を受けるために必要な学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、本学学部各学年次における学業成績が優秀な者で、学部の演習指導教員の推薦を得ている者に対して口述試験によって確認します。

### ・指定校推薦入試

大学院の教育課程に必要な日本語能力及び大学院レベルの専門分野を学ぶために必要な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、事前の研究計画書の提出及び日本語能力の認定を含む書類審査において確認します。

## 博士後期課程

(1) 修士の学位または専門職学位を有することを前提とした、専門の研究領域において自立した高度な研究を遂行する能力がある人

(2) 博士論文を完成することができる高度な専門能力、論理的思考能力、データ分析能力、外国語読解能力、文章表現能力を有する人

(3) 知的関心を持ち続け、将来にわたって研究活動を継続する可能性を持つ人

上記のことを踏まえて、博士後期課程では、以下の入学者選抜（入学試験）を行います。

### ・一般入試

自立した研究者、またはその他の高度な専門的職業人として、広い視野に立った精深な学識に基づいて、日本及び世界経済の歴史と現状、さらに地球の環境と資源問題等の解明を真摯に探求する能力を身につける意思があるか、また、経済理論とその応用領域における深い専門知識と優れた分析手法を身につけ、自らの知的関心と構想力とを駆使して経済現象を分析・研究し、学問的貢献・社会的意義のある独創的な研究成果を生み出していく能力を有しているか、修士論文を含む書類審査、筆記試験及び口述試験において確認します。なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者については英語の筆記試験を免除します。

### ・シニア大学院入試

これまでの経歴を踏まえ、日本及び世界経済の歴史と現状、さらに地球の環境と資源問題等の解明を真摯に探求する能力を身につける意思があるか、また、経済理論とその応用領域における深い専門知識と優れた分析手法を身につけ、自らの知的関心と構想力とを駆使して経済現象を分析・研究し、学問的貢献・社会的意義のある独創的な研究成果を生み出していく能力を有しているか、修士論文を含む書類審査、及び口述試験において確認します。

### ・学内選考入試

大学院博士後期課程レベルの専門分野を学ぶための知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、本学経済学研究科修士課程を修了見込の者に対して修士論文を含む書類審査、及び口述試験によって確認します。なお、本学大学院の「研究成果報告書」は「修士論文に代わる論文」とは認めません。

### ・指定校推薦入試

大学院の教育課程に必要な日本語能力及び博士後期課程レベルの専門分野を学ぶために必要な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、事前の研究計画書、経済学分野

または関連分野の修士論文もしくは修士論文要旨の提出及び日本語能力の認定を含む書類審査において確認します。

## 経営学研究科・入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学の建学の理念である、「進一層」の気概（チャレンジ精神）をもち、「責任と信用」を重んじ、「実践的な知力」を身に付けて活躍する人材の養成が本学の教育研究上の目的です。このため、経営学研究科では、学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げることを実現するため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづく教育を実施することによって、経営、経営情報、会計、商学などの諸領域および関連分野を研究対象として、それらの理論や手法を活用し、それらにおける現実的な諸問題およびさまざまな学術研究分野における理論的諸問題を真摯に探究し新たな知識を創造し、実社会に貢献できるような優れた専門的知識・能力・技能をもつ人材となり得る学生を求めます。

### 【入学者受入の方針】

#### （1）修士課程

##### （求める学生像）

修士課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げた能力が獲得できるための能力・意欲について、入学時点で下記のような学生を求めます。

- （1）グローバルな視点から企業や社会の問題解決に取り組む意欲のある、「進一層」の気概をもつ人
- （2）倫理観と責任感をもち、多様な価値観と文化を受け入れられる人
- （3）学術文献を読解するための十分な読解力をもち、経営、経営情報、会計、商学などの分野で、高度な専門知識を修得するための十分な学力のある人
- （4）企業経営における実践的な問題解決を行うための分析力と論理的思考力をもち、創造性のある人

修士課程では、学士以上の資格および相応する能力をもち、専門分野の研究をさらに進めたい学生を受け入れます。修士課程を修了して修士号を取得した後は、実務界に入ってその知識を活用する専門家として、あるいは博士後期課程に進んで研究者としての道を歩むことなどが期待されています。

#### （入学者選抜の基本方針・入学者に求める能力の評価方法）

修士課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げた能力が修得できるために、入学時点において学士以上の専門的な知識・能力・意欲があることを確認するために下記の入学者選抜を行います。

#### （1）一般入試

筆記試験では、修士課程で学ぶべき経営学の専門分野に関する学士レベルの基礎的理解力と、国内外の専門書、学術論文等を読解できる外国語（英語または日本語）能力について学士レベルの読解力・表現力を評価するとともに、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、修士課程の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者については筆記試験を免除します。

#### （2）留学生入試

筆記試験では、修士課程で学ぶべき経営学の専門分野に関する学士レベルの専門的知識と、国内の専門書、学術論文を読解できる日本語能力について日本語検定試験N1レベルの読解力・表現力を評価します。さらに、日本語による口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、修士課程の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(3) 社会人入試**

社会人経験を大学院での学びに活かすことができることを前提に、社会人としての要件に関する書類審査を経て、希望する研究課題に関する小論文では、関連する専門分野の理解力を評価します。口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲とともに入学後の修学環境を確認し、総合的に評価します。

### **(4) シニア大学院入試**

永年の職業に携わって得られた豊富な実務経験や知識を経営学の観点から理論的に考察し修士論文に総括したい社会人を対象として、シニアとしての要件に関する書類審査を経て、希望する研究課題に関する課題レポートにより関連する専門分野の理解力を評価し、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(5) 学内選考入試**

本学学部において優秀な成績を修めた4年生に対して、筆記試験を免除し、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(6) 本学学部早期卒業者選考**

本学学部での成績が極めて優秀で大学院進学をめざす本学学生を対象に、3年次で学士号を取得し本学大学院の進学を希望する学生に対して、筆記試験を免除し、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(7) 海外指定校推薦入学**

本研究科が指定する外国大学を卒業見込み（または入学時点で卒業後1年未満）であり、日本的経営に関心をもち、本研究科が個別に指定する日本語能力の条件（原則日本語検定試験N1）を満たし、大学の推薦を得られた学生に対して、研究課題や研究計画を含む出願書類などの内容などから入学後の学修に対応できる能力、専門分野を学ぶために必要な知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを書類選考で確認します。

## **(2) 博士後期課程**

### **(求める学生像)**

博士後期課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げた能力が獲得できるための能力・意欲について、入学時点で下記のような学生を求めます。

- (1) グローバルな視点から企業や社会の問題解決に取り組む意欲のある、「進一層」の気概をもつ人
- (2) 倫理観と責任感をもち、多様な価値観と文化を受け入れられる人
- (3) 外国語学術文献を読解するための十分な読解力をもち、経営、経営情報、会計、商学などの分野で、修士学位取得者と同等以上の高度な専門知識・技能を修得している人
- (4) 企業経営における実践的な問題解決を行うための高度の分析力と論理的思考力をもち、創造性のある人
- (5) 経営学分野の課題に関して将来にわたり探求心をもって自立的に研究活動を継続する意欲をもつ人

博士後期課程では、修士以上の資格および相応する能力をもち、専門分野の研究をさらに進めたい学生を受け入れます。経営学・関連分野の国内外の学会で研究者として評価される高水準の博士論文を完成させ、博士後期課程を修了して博士号を取得したのものには、その専門領域の高度な知識・技能と学際的な知識を身に付けた研究者として高等教育機関や研究機関等で経営学分野の研究や教育に携われる人材となることが期待されています。

#### (入学者選抜の基本方針・入学者に求める能力の評価方法)

##### 一般入試

博士後期課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針(ディプロマポリシー)で掲げた能力が獲得できるために、入学時点において修士同等以上の高度に専門的な知識・能力・意欲があることを確認するために入学者選抜を行います。

筆記試験では、外国語文献等を読解できる専門的語学(英語)能力に関して、修士号を取得した学生として十分な読解力を評価します。さらに、修士論文等の内容、今後の研究計画に関することを中心とした口述試験をとおして、入学後の学修に対応できる能力、専門領域における高度な知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲、継続的な研究活動が可能な実行力などを総合的に評価します。

なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者または本研究科が指定する要件を満たす高等教育機関に所属し、出願前に希望指導教員との事前相談での確認を受けた専任教員については筆記試験を免除します。

## コミュニケーション学研究科アドミッション・ポリシー

本学の建学の理念である、「進一層」の気概（チャレンジ精神）をもち、「責任と信用」を重んじ、「実践的な知力」を身に付けて活躍する人材の養成が本学の教育研究上の目的です。このため、コミュニケーション学研究科では、学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げることを実現するため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづく教育を実施することによって、メディア・コミュニケーション、情報社会、組織コミュニケーション、異文化コミュニケーション、表象文化等の諸領域および関連分野を研究対象として、各理論や手法を活用し、現実的な諸問題およびさまざまな学術研究分野における理論的諸問題を真摯に探究し、実社会に役立ち得るような新たな知識を創造できる学生を求めます。

### 【入学者受入の方針】

#### （1）修士課程

##### （求める学生像）

修士課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げた能力が獲得できるための能力・意欲について、入学時点で下記のような学生を求めます。

- （1）グローバルな視点で社会の課題を深く考え、課題解決に取り組む意欲と「進一層」の気概がある人
- （2） 学術文献を読解するための十分な読解力を持ち、メディア・コミュニケーション、情報社会、組織コミュニケーション、異文化コミュニケーション、表象文化の分野で、高度な専門知識を修得するための十分な学力のある人
- （3） 倫理観と責任感をもち、多様な価値観と文化を受け入れられる人
- （4） 歴史的なものの見方、論理的なものの考え方に興味があり、修士論文作成のための分析力と論理的思考力を持ち、創造性のある人

上記のことを踏まえて修士課程では、以下の入学者選抜（入学試験）を行います。

#### （入学者選抜の基本方針・入学者に求める能力の評価方法）

修士課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針（ディプロマポリシー）で掲げた能力を修得するために、入学時点において学士以上の専門的な知識・能力・意欲があることを確認するために下記の入学者選抜を行います。

##### （1）一般入試

筆記試験では、修士課程で学ぶべきコミュニケーション学の専門分野に関する学士レベルの基礎的理解力と、国内外の専門書、学術論文等を読解できる英語能力について学士レベルの読解力・表現力を評価するとともに、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、修士課程の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者については英語の筆記試験を免除します。

##### （2）留学生入試

筆記試験では、修士課程で学ぶべきコミュニケーション学の専門分野に関する学士レベルの専門的知

識と、国内の専門書、学術論文を読解できる日本語能力について日本語検定試験N1レベルの読解力・表現力を評価します。さらに、日本語による口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、修士課程の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(3) 社会人入試**

社会人経験を大学院での学びに活かすことができることを前提に、社会人としての要件に関する書類審査を経て、基礎課題・専門課題に関する筆記試験により、関連する専門分野の理解力を評価します。口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などに基づいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲とともに、入学後の修学環境を確認し、総合的に評価します。

### **(4) シニア大学院入試**

長年の社会人生活で培った豊富な実務経験や知見を、コミュニケーション学の観点から理論的に考察して修士論文にまとめたい、という希望者を対象とします。まず、志望動機及び入学後の研究に対する熱意等を確認するため事前相談を実施し、その上で希望する研究課題に関するレポート及び口述試験を実施します。書類審査でシニアとしての要件を確認し、課題レポートにより関連する専門分野の理解力を評価します。口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などに基づいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(5) 学内選考入試**

本学学部において優秀な成績を修めた4年生に対して、筆記試験を免除します。口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(6) 本学学部早期卒業生選考**

本学学部での成績が極めて優秀で大学院進学を目指す本学学生を対象に、3年次で学士号を取得し本学大学院の進学を希望する学生に対して、筆記試験を免除し、口述試験では、研究課題や研究計画を含む出願書類などにもとづいた質疑応答により、入学後の学修に対応できる能力、専門的知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを総合的に評価します。

### **(7) 海外指定校推薦入試**

本研究科が指定する外国の大学の卒業見込生、大学院在学学生または卒業後3年以内の卒業生で、コミュニケーション学研究に関心があり、日本語検定試験N1レベルの日本語能力をもち、大学の推薦を得られた学生に対して、研究課題や研究計画を含む出願書類などの内容などから入学後の学修に対応できる能力、専門分野を学ぶために必要な知識・理解力、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを書類選考で確認します。

### **(8) 国内指定校推薦入試**

本研究科が指定する日本国内の大学を卒業見込みで、コミュニケーション学研究に関心があり、大学の推薦を得られた学生に対して、研究課題や研究計画を含む出願書類などの内容などから、入学後に専門分野を学ぶために必要な知識・理解力や、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを書類選考で確認します。



## (2) 博士後期課程

### (求める学生像)

博士後期課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針(ディプロマポリシー)で掲げた能力が獲得できるための能力・意欲について、入学時点で下記のような学生を求めます。

- (1) グローバルな視点で社会の課題を深く考え、課題解決に取り組む意欲と「進一層」の気概がある人
- (2) 学術文献を読解するための十分な読解力を持ち、メディア・コミュニケーション、情報社会、組織コミュニケーション、異文化コミュニケーション、表象文化の分野で、修士学位または専門職学位取得者と同等以上の高度な専門知識を修得している人
- (3) 倫理観と責任感をもち、多様な価値観と文化を受け入れられる人
- (4) 歴史的なものの見方、論理的なものの考え方を有し、博士論文作成のために必要な分析力、論理的思考力を持ち、創造性のある人
- (5) 知的関心を持ち続け、将来的に研究活動を継続する可能性を持つ人

上記のことを踏まえて博士後期課程では、以下の入学者選抜(入学試験)を行います。

### (入学者選抜の基本方針・入学者に求める能力の評価方法)

博士後期課程の教育課程を習得することによって学位授与の方針(ディプロマポリシー)で掲げた能力を獲得できるために、入学時点において修士同等以上の高度に専門的な知識・能力・意欲があることを確認するために入学者選抜を行います。

#### (1)一般入試

筆記試験では、外国語文献等を読解できる専門的語学(英語)能力に関して、修士号を取得した学生として十分な読解力を評価します。さらに、修士論文等の内容、今後の研究計画に関することを中心とした口述試験を通して、入学後の学修に対応できる能力、専門領域における高度な知識・理解力、論理的な思考力、表現力および主体的に学ぶ意欲、継続的な研究活動が可能な実行力などを総合的に評価します。なお、本研究科が指定する英語検定試験の高得点者については、英語の筆記試験を免除します。

#### (2)シニア大学院入試

長年の社会人生活で培った豊富な実務経験や知見を、コミュニケーション学の観点から理論的に考察して博士論文にまとめたい、という希望者を対象とします。すでに国内外の大学院で修士号は取得しているが、その後に社会人生活を送ったので研究活動には長期間なブランクがあり、そのために学術的な手法を駆使して研究活動を行うことには必ずしも熟達しているとはいえないが、専門的な知識と高い理解力があり、博士後期課程での学修を希望する者を対象として、自らの知的関心と社会人生活で得た知見を活用して、学問的貢献や社会的意義のある独創的な研究成果を出していく能力と意欲を有しているかについて、修士論文を含む書類審査、及び口述試験において確認します。

#### (3)学内選考入試

大学院博士後期課程レベルの専門分野を学ぶための知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲を持っているか、本学コミュニケーション学研究科修士課程を修了見込の者に対して修士論文を含む書類審査、及び口述試験によって確認します。

#### (4)海外指定校推薦入試

本研究科が指定する外国の大学の大学院修士課程を修了見込みで、コミュニケーション学研究に関心があり、大学の推薦を得られた学生に対して、大学院の教育課程に必要な日本語能力及び博士後期課程レベルの専門分野を学ぶために必要な知識及び理解力、論理的な思考力、判断力及び主体的に学ぶ意欲などを、研究計画書や修士論文を含む書類選考で確認します。

#### **(5)国内指定校推薦入試**

本研究科が指定する日本国内の大学院修士課程を修了見込みで、コミュニケーション学研究に関心があり、大学の推薦を得られた学生に対して、入学後に専門分野を学ぶために必要な知識・理解力や、論理的な思考力、判断力、表現力および主体的に学ぶ意欲などを、研究計画書や修士論文等を含む書類選考で確認します。

## 現代法学研究科・入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

### 1. 方針

現代法学研究科は、ディプロマ・ポリシー（DP）で掲げることを実現し、カリキュラム・ポリシー（CP）で示す教育課程において必要となる、以下の学力、関心等を有する人を入学時点において求めます。

- （1）現代法学研究科の教育研究理念を理解し、学ぶ意思を持ち、大学院教育を受けるために必要な学士レベルの学力を備えている人
- （2）社会において法的な能力を活かすために、学ぶ意欲のある人
- （3）多様な社会問題を理解し、法的観点および政策的観点から問題解決に取り組む意欲のある人
- （4）国際的な視野を持って、幅広い教養を身に付けることを目指す人
- （5）修士論文を作成することを前提とし、研究活動に取り組む意欲がある人

### 2. 内容

上記のことを踏まえて、以下の入学者選抜（入学試験）を行います。

#### （1）一般入試

大学院教育を受けるために必要な学士レベルでの専門的な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを、希望する専門分野に関する小論文試験および口述試験において確認します。

#### （2）外国人留学生入試

大学院の教育課程に必要な日本語能力（日本語能力試験N 1 レベル）および大学院レベルの専門分野を学ぶために必要な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを、口述試験において確認します。

#### （3）社会人入試

社会人経験を大学院での学びに活かすことができることを前提に、専門的な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを、口述試験において確認します。

#### （4）シニア大学院入試

シニア大学院の趣旨である生涯現役の観点で、専門的な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを確認します。これまでの経歴を踏まえ、研究テーマの設定や研究計画が適切であるか、また、志望動機および入学後の研究に対する熱意があるか等を確認するために、口述試験を実施します。

#### （5）学内選考入試

大学院教育を受けるために必要な学士レベルでの専門的な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを、本学学部における学業成績が優秀な者に対して口述試験によって確認します。

#### （6）指定校推薦入試

大学院の教育課程に必要な日本語能力（日本語能力試験N 1 レベル）および大学院レベルの専門分野を学ぶために必要な知識・理解力、論理的な思考力、判断力および主体的に学ぶ意欲を持っているかを、事前の研究計画書の提出および日本語能力の認定を含む書類審査において確認します。